

2015年度 FD開発プロジェクト活動計画

FD開発プロジェクト・リーダー 常盤 祐司

<FD 開発プロジェクト>

1 活動目的

教育および学びの質の向上を目的とし、すべての教員が使える教育方法および教育支援ツールの展開を行う。

2 活動計画

詳細なスケジュールは添付 WBS に記載する。

(1) 教育方法の開発と展開

- ① e ポートフォリオシステムを用いた教育の実践を支援し、その教育方法の展開を行う。
- ② “手書き” ツールを用いた教育方法の実証実験を行う。
- ③ 2014 年度に開発した IT 基礎教育支援ツールの実証実験を行う。
- ④ 2014 年度に開発した反転授業環境の実証実験を行う。

(2) 教育支援ツールの開発と展開

- ① JM00C に向けたコンテンツを開発し、それを用いた教育方法を開発する。

(3) FD ハンドブックコンテンツの充実

- ① FD 推進センターが開催するイベントの記録ビデオを制作し、FD ハンドブックで公開する。
- ② 「教員の輪」コンテンツの制作を継続する。

3 期待される状態

「2 活動計画」の成果として次の状態を目指す。

- 教員による教育実践：(1)①②③④
- JM00C 対応コンテンツの開発：(2)①
- FD ハンドブック Web サイトのアクセス数増加：(3)①②

4 プロジェクトメンバー(敬称略)と役割

坂本 (キャリアデザイン学部), 野々部 (デザイン工学部), 尾花 (情報科学部), 宮崎 (経済学部), 柴岡 (入学センター), 芳賀, 藤井, 常盤 (情報メディア教育研究センター)

情報メディア教育研究センター所属のメンバーが教育方法および教育ツールを提案し、それを学部所属のメンバーが実践して評価を行い、事務職員のメンバーが事務的な手続きをレビューするという役割分担とする。

5 コミュニケーション

- 月例会
- メールングリスト (fdde@ml.hosei.ac.jp)

以上

FD開発プロジェクト2015 WBS

2015.5.7 常盤 作成
2015.5.8 常盤 更新

○:計画 ●:完了

戦略/施策/実行計画	担当																	
1. 教育方法の開発と展開																		
① eポートフォリオシステムを用いた教育方法を開発し、そこで得られた知見の学内への展開をはかる。	藤井	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3					
ゼミにおける利用を検討する。	宮崎・藤井・常盤		○															
ゼミにおける利用を提案する。	宮崎・藤井・常盤			○														
ゼミにて利用を実践する。	宮崎・藤井・常盤			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○					
ゼミ募集にてeポートフォリオ制作を支援する。	藤井								○	○	○	○	○					○
結果を取りまとめる	宮崎・藤井・常盤																	○
プロジェクトレビュー	P. Meeting																	○
② "手書き"ツールを用いた教育方法の実証実験を行う。	常盤	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3					
各キャンパスにて講習会を実施する。	常盤		○				○											
教育の場で利用を実践する。	宮崎・坂本・常盤			○	○					○	○	○	○					
評価を行う。	P. Meeting						○											○
プロジェクトレビュー	P. Meeting																	○
③ 2014年度に開発したIT基礎教育支援ツールの実証実験を行う。	藤井	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3					
自習用コンテンツを作成する。	藤井	○	○	○	○													
理工学部 of 授業にて実証実験を行う。	藤井	○	○	○	○													
評価を行う。	藤井					○												
評価を元にしたシステムの改良を行う。	藤井							○	○	○	○	○	○					
SaaS形式でのサービス提供環境の構築を行う。	藤井							○	○	○	○	○	○					
評価を行う。	藤井																	○
プロジェクトレビュー	P. Meeting																	○
④ 2014年度に開発した反転授業環境の実証実験を行う。	芳賀	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3					
反転授業実験ラインを確定する	芳賀			○														
システムを改良する	芳賀				○	○												
実証実験を行う	芳賀						○	○	○	○	○							
データの解析を行う	芳賀											○						
解析結果をまとめ報告する	芳賀																	○
評価を行う	芳賀																	○
プロジェクトレビュー	P. Meeting																	○
2. 教育支援ツールの開発と展開																		
① JM000に向けたコンテンツを開発し、それを用いた教育方法を開発する。	芳賀	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3					
先行コンテンツを調査し、ニーズと対象層を確定する	芳賀		○															
コンテンツシナリオ、必要資料、制作スケジュールを確定する	芳賀			○														
収録、編集作業を行う	芳賀				○	○	○	○	○									
完成コンテンツのレビューを行い、改善点を修正する	芳賀										○	○						
JM000(gacco)側と開講について協議する	芳賀					○	○	○	○	○								
レビュー及び総括	P. Meeting																	○
次年度に向けての改善作業	芳賀																	○
3. FDハンドブックコンテンツの充実																		
① FD推進センターが開催するイベントの記録ビデオを制作し、FDハンドブックで公開する。	芳賀	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3					
イベントを撮影する。(7/11 新任教員FD 세미나, 11/14 FDフォーラム, 12/25 学生の声コンクール授賞式/座談会 など)	芳賀				○					○	○							
ビデオページを開発する。	芳賀		○															
Webサイトをレビューする。	P. Meeting			○														
ビデオをFDハンドブックに掲載する。	芳賀				○					○	○							
評価を行う。	芳賀																	○
プロジェクトレビュー	P. Meeting																	○
② 「教員の輪」コンテンツの制作を継続する。	常盤	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3					
記事をFDハンドブックに掲載する。	常盤	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○					
Webサイトをレビューする。	P. Meeting					○					○							
システムの改善を行う。	常盤						○						○					
評価を行う。	常盤																	○
プロジェクトレビュー	P. Meeting																	○